



文化創造学部主催の第2回文化創造フォーラムが2002年1月12日(土)に星が丘キャンパスの記念会堂で開催されました。今年度は、「笑いでコミュニケーション」と題し、落語家の桂あやめ氏を迎えて女流落語家としての苦労

女性落語家を 迎え、「笑いで コミュニケーション」

大学

話やコミュニケーションのあり方などについて講演が持たれました。途中、新作落語が披露され、会場を埋めた学生たちからは盛んな笑い声が、文化創造学部では今後このような形での講演会を続けていきたいとしています。

平成14年度より修学旅行先が2泊3日で沖縄になることについて担当の坂東先生にお話を聞きました。

「20年近く、修学旅行先は広島が続いていましたが、今年度から沖縄に変更になりました。沖縄は移動がしやすいと総合学習のテーマとして適している」と判断したた



坂東進教諭

めです。総合学習の時間は1年間で60〜70時間あり、その時間を利用して出発まで、沖縄とは何かという点を生徒に認識させたいと考えています。現地では、ひめゆりの塔の見学をしたり、がま体験など沖縄の文化に触れることで、より深く日本について理解できるのではないかと思います。」

今年度より中学校の 修学旅行が沖縄に

中学校



沖縄の海

高校修学旅行 今年から中国へ 4泊5日の研修

高等学校

平成14年度より、高校2年で実施される修学旅行が中国になります。中国では上海、蘇州、南京を4泊5日、昨年度までの九州と同じく研修します。この件について、担当の豊島先生にお話を聞きました。



豊島忠教諭

「研修先が海外ということでも、5年前から何回も先遣団を出して検討を重ねてきました。生徒たちが利用するホテルは、5つ星の素晴らしい設備で、食事も和洋中すべてが揃っています。トイレも心配ありません。本校は昨年、南京市随一のレベルを誇る南京市第一中学校(日本の高校にあたる)と姉妹校提携を結んでおり、南京では一中の生徒がマンツーマンで市内を案内してくれることになっています。

今、生徒たちは、一中の生徒たちと文通をしたり、中国関係のトラスを切り抜きしたり、講演会を企画して最近の中国の若者たちについて学んだりしています。さらに今年度からは、世界史の授業で日中間の歴史を学びます。研修では南京虐殺記念館の見学、献花追悼も計画しています。」

このような交流を通じて、海を越えた新しい友情が育まれることでしょう。この修学旅行が若い人たちに新しい歴史のページを刻むきっかけになってくれるよう期待しています。



中山陵



杉本助男教授

コミュニケーション 研究科 臨床心理士に 9名合格の快挙

大学院

今春、大学院コミュニケーション研究科人間コミュニケーション専攻(平成13年度入学者より心理学専攻)修了生9名が臨床心理士の資格を取得しました。

この資格は日本臨床心理士資格認定協会が毎年1回実施するもので、通常は大学院修士課程修了後に1年間の臨床経験がなければ受験できないのですが、本学大学院心理学専攻臨床心理士養成コースは日本臨床心理士資格認定協会から第1種指定校として認定を受けている大学の1つで、修士課程修了と同時に受験資格が与えられます。

コミュニケーション研究科長で、心理臨床相談室長の杉本助男先生にお話を聞きました。

第1種指定校の認定はどのように受けるのですか。

杉本先生「臨床経験を積むことが可能な臨床心理相談活動を行なっているかどうか、制度、施設、設備の多方面から数年に一度ずつ協会から査察を受けなければなりません。本学は高い評価を得て認定校になっています。」

心理臨床相談室はどのような運営されていますか。

杉本先生「私どもは、相談活動を通して地域社会へ貢献することでも大学の大きな役割であると考えています。予約制で土曜日も開き、相談にあたっては7種類の区分によっても大変きめ細かく対応し

生にお話を聞きました。

公的機関に相談所のない成人も対象として心理相談を行なっていることが大きな特長です。現在の予約状況は3か月くらい先まで杯です。」

特に力を入れていることはありますか。

杉本先生「この相談活動をよりよいものにするために、常に教員と大学院学生が一体となって研究を重ねています。全院生が参加する週一回のケースカンファレンスでは、議論が夜遅くまで及ぶこともしばしばです。実際の臨床相談から、院生の報告に対して教授がコメントするスーパービジョンという制度にもっとも研究を深めることができます。さらに夏休みに

は4日間にわたる合宿を行っています。特にロールプレイを通していろいろな役割を擬似的に体験することで得られる成果には大きな意味があります。」

最後に、今後も心理学の分野では東海地区のトップ大学であるという自負をもって、誰でも安心して気軽に利用できる心理臨床相談室としてさらに適進していきたいと考えています。と力強い言葉がありました。

ちなみに今年度の心理学専攻の志願者は定員15名に対して96名が応募するという激戦りになったということです。受験生からも大学院での研究に厚い信頼があるようです。

中学校

中学バトン部 全日本マーチング バトントワリング大会で 金賞受賞

中学バトントワリング部は1月13日、東京ベイNKホールにて行われた第29回全日本マーチングバトントワリング大会中学生の部で金賞を受賞しました。

今年のテーマは「THE WELCOME」。テーマは早くに決まっていたものの、バトンとポアワークの正確さやウエスタンらしい演技展開、持ち味である統一美を上手く打ち出す構成など、考えなくてはならない課題は多く、やはり全国大会への道のりは長かつたようです。

「最初はチームが全然まとまらず、上級生として不安がいっぱいでしたが、全国大会で金賞をいただくことができ、がんばったなあとつくづく嬉しく思います」とは、部長の黒柳見知子さん。

中高生の部活離れが世間で叫ばれていますが、お母様方手作りの衣装に身を包み、1年生から3年生まで45名で「生懸命踊った思い出は、きつとこれからの糧となることでしょう。バトントワリング部始め、中高のクラブ活動の今後の活躍を期待したいものです。」

